飯田高校同窓会報

第21号

発行人
長野県飯田高等学校同窓会長
松下逸雄

編集発行人
馬場

印刷所
飯田共同印刷(株)

世紀の記念式典挙行

「青雲」のブロンズ像建立

飯田高校が独立して八十年となった五十五年十一月二日、母校において同窓会・PTA・学校の三者が盛大な記念式典を挙行した。当日は秋晴れの好天候に恵まれて、記念行事に華が添えられた。行事の概要について記念事業実行副委員長の加藤清敬(中39回)さんに書いて頂いたので次により紹介します。

昭和五十五年十一月二日、学校正門の西側木立の中に、阿南町出身都下清瀬市在住の城田孝一郎氏制作になる、ブロンズの「青雲」の像が除幕されました。

縦横にゆるやかなカーブしたスクリーンを背景に、春風を学んだ布をまとい、静かに立ったユニークな青年の裸像です。

これが母校独立八十周年を記念するメイン事業として、新しく建立された野外ブロンズ像です。

この日母校は、独立八十周年を祝う晴やかなムードの中に、同窓生・PTA・在校生一同がそれぞれに、追憶と感慨、歓喜と希望の思いを新たにしたことでした。

さて母校の独立八十周年記念事業は、昭和五十四年九月に、その実行委員会が組織された時が、実際的な事業のスタートとなりました。関係委員の幾回もの会合協議が重ねられ、結果的には次の四事業が、八十周年を飾る記念事業となりました。

それは、

一、野外ブロンズ像の建立
一、校史の発行
一、記念講演を含む記念式典と祝賀会
一、新同窓会名簿の発行

で野外ブロンズ像「青雲」は前述のとおりで、その費用約八百万円。校史は明治十五年の創立開校以来百年に及ぶ母校の貴重な足跡を記したもので、昭和五十一年から編集に着手、資料蒐集を始めとする編集委員各位の大変な努力の実る結晶です。当初からの経費を合せると〆て約千六百万円。(内八百万円は講読者の納入代金です)A五版千頁の堂々たる校史が、独立八十周年の時に合せて出版されたことは、真に意義深いことでした。

記念講演は同窓高二卒朝日新聞編集委員の本多勝一氏の「民族と文化・当時の飯田高校」でした。異色のジャーナリストが鋭い世界観をもって語る言葉は、この日の式典に光彩ひときわでした。続いての祝賀会は大講堂を会場に、先輩後輩手を携えて杯を重ね、校歌の大合唱は堂を圧してフィナーレを飾りました。これらの費用は記念品(風呂・手拭)代などを含め約四百万円。更に五年毎に更新改訂される同窓会の新名簿が、千二百万円を投じて、八十周年記念の年に発刊されたこともグッドタイミングと言えましょう。(名簿は維持会費完納者に無償配布されました)

以上の五事業について聊か金額にこだわったことは恐縮ですが、これら莫大な経費が、一銭の寄附に頼らず、一切が同窓会の積立会費で賄われたことを、同窓諸賢にご理解いただきたいが為でした。維持会費納入が始って十五年、この累積が今回の輝かしい独立八十周年記念事業達成の基礎となった訳です。

同窓会長始め役員各位の遠き慮りと、同窓諸賢の母校に寄せる深い愛情に対し、改めて敬意と感謝を捧げつつ、母校のいよいよの隆昌発展を祈って筆を擱きます。

ご挨拶

同窓会長　松下逸雄

私は、去る八月二十三日の昭和五十六年度定期総会の席上にて、みたび会長に選出されました。

母校飯田高校と共に古い歴史と、良い伝統とを誇り、会員は二万名にならんとしているこのすばらしい同窓会の会長として、内外にわたって、全ての面に努力してまいる覚悟でありますから、会員皆様方の御協力を切にお願い致します。

昨年十一月、母校独立八十周年記念式典が盛大に挙行され、長い歴史の一頁が記録されました。「校史の編纂」「ブロンズ像の建立」「会員名簿の発行」と、独立八十周年にふさわしく、極めて多彩な記念事業でありました。

会員の皆様には、維持会費を納入しての御協力に感謝しています。来年は創立百年、いよいよ二十一世紀に向って、すべてが前進しています。

同窓会の本年度事業として、第一に同窓会報もまんねりの感がありますので独立八十周年を契機に内容を充実して発行するよう計画をなし、漸く発行されることになりました。このことは同窓会報の年二回発行を一回として、ペースを大きくして、広く詳細な広報に致したいと考えました。又編集委員を学校の校内幹事の先生から五名、同窓会の一般から五名、を選出して、計十名を以て委員会を組織して、この編集を担当してきました。

初めての編集でありますから不備な点にお気づきの事と存じます。どうか会員の多くの皆様より御意見なり、御感想なりを、どしどし御投稿下さって、立派な同窓会報に致してまいりたいと思います。

第二は長野高校の跡地に旧飯田中学の思い出を残すため記念碑を建立する予定でいます。

第三は北海道同窓会の総会に、伊沢集治先生を初めて派遣致しました。

全国に在住する会員の御奮闘、御健勝をお祈りいたすと共に、各地の近況を次の会報に発表出来ますよう、御投稿をお願いしまして御挨拶とします。

雄々しく空を見上げるブロンズ像

青雲の像に寄せる

製作者　城田孝一郎

「青い雲」を象徴とする題名を冠せようとしている。ロダンが〝雲は天才である〟と言ってのけていることを思い出したからである。雲が天才であり得るのは風の演出に負っているからであろう。

青年を主題とする彫刻は、風を学んだ布裂とかかわりながら、モニュメントとしての構成を強いている。布裂は風を形象化する道具である。言ってみれば、天才の雲も、布裂も風の視覚化ということになる。

去年の美術展に「風を受ける」という男性の木彫を発表しているが、この「青雲」の像のモチーフはその表現に惹っている。

耿之助先生の「雲天行健」と墨書された扁額を拝見したことも思い出される。後で中国の古い言葉に「天行健」(てんのめぐりはすこやか)と言うのがあることを知ったが、先生の書とのかかわりは知らない。それにしても、この語は気宇雄大な広がりがあっていい。碧い空に白い雲がぽっかり浮んでいる景は清く気高い。青年の集う広場の像に、せめても託しておきたい夢である。それが「青雲」である。

自然の法則や秩序の懐にある風や雲も、吾々にとっては気まぐれ坊主である。感覚的に、微視的に、いじくりまわせる感性の立場こそが創造を生み出し得る源泉だと思っている。

屈脚した青年のプロポーションを弱々しく眺めてはいけない。屈折した精神でもない。本当は次への飛翔や伸展に必要な有能な条件を包含した造形の組立なのである。

ごあいさつ

前校長　牛山之雄氏

私はこの三月末日をもって退職致し、懐かしい飯田高校を去ることになりました。飯田高校は、僅か三年間の短い勤めでございましたが、同窓会を始めとして関係諸団体、地元の方々の御厚意により、気持よく、無事勤めさせていただいたことに対し、心から感謝申し上げる次第でございます。その間に取り組んだ施設設備の充実の仕事、共通一次試験場問題の改善等様々な事業のことが想起されますが、就中昨年十一月の独立八十周年記念の大行事は、昨日のことのごとくに思い出されます。あの盛事を境に、明日に向けて飯田高校が一段と強く発展への展望を持ち得たであろうことを同窓会の皆様と共に慶び合いたく思うものでございます。

三十有年に至る教員生活の最後を飯田高校で締めましたことについて、私には格別の感慨がございます。私が飯田高校に母校のような愛着を感じますのは、飯田の地に私を育ててくれました先師、知己あるいは学友が沢山居り、陰に陽にあたたかな支援を恵んで下さったことと、生徒諸君が穏健まろやかで、知的関心の度合も高く、いかにも学園らしい知的雰囲気の中で気持よい教師生活を堪能させてくれたからにはかなりません。教育受難の時代といわれる今日において、この事は大いに感謝しなければならないことだと肝に銘じて感じ入って居るわけでございます。

戦後三十数年、教育は何をして来たか、の問いは、同時に私の教員生活への問いかけと完全に重なり合い、重い責め句となって響いて参りますが、経済的技術的繁栄のかげで、何か大きな欠落のあることを感じ、深いところでそれが教育受難の原因になっていると致しますと、その部分に光を当てて認識を深め、人間の生き方に長期的理念的展望を与えるのが後期中等教育の大きな仕事であった筈なのに、果してその実効はいかがであったかと、責め立てられつつ夢見の悪い昨今でありますが、一方では焦ることなく、長い目で今後を見守っていきたい心境にあることも事実でございます。

懸案の大体育館建設の事業も会長さん始め皆様方の御尽力により実現の見通しがつきましたことをお伺いし、安堵致して居るところでございます。創立百周年も間近に迫り慶事続きで誠に大慶至極に存じます。益々同窓会が発展し、母校のため、後輩生徒諸君のため、良き指導の実を挙げられますよう心から祈念し、重ねてこれまでお寄せいただきました御厚誼に深謝申し上げて、退任の御挨拶と致します。

新校長　三浦宏氏

秋涼爽快の候となりました。

同窓の皆様にはいよいよ御壮健にわたらせられ、ますます御活躍のこととお慶び申し上げます。

この四月から、牛山之雄先生の後任として、母校へまいりました。旧飯田中学四十回卒業ですがなにぶん不敏短才な者でございますので「任重くして道遠し」の感はまぬがれませんが、よろしくお引き廻しのほどお願いします。佐久の望月高校長を振り出しに、県教委事務局、伊那北高校長を経由しましたので校長職は十一年目であります。若い時十二年間母校に勤務させていただき、水上正広・北原明治・平林圭介・清水次郎・宇野勝房の各校長先生方の御指導を賜りましたので、お目にかかる大先輩方、同級生、後輩のみなさん、それに校舎の隅々まで懐しい次第ですが、才月は人をまたず、時は流れに流れて世相は変り、生徒総数一、一〇四名の中、三五〇名（三一・七％）が女子となり、校風も次第に変ってきております。変らぬものは独立八十年、創立百年におよぶ無言の教育環境とそこに学ぶものの〝誇り〟がどの後輩生徒諸君にもありありとうかがえることであります。時代は移っても、島地五六先生以来の「質実剛健」の伝統的校風を根底におき、地味にまじめにのびのびと学校生活に打ち込ませたいと思いますし、この南伊那谷の雄大な自然環境に由来する荒削りな気風を大切にしたいものと思っております。つねに謙虚に自己改革を怠らず、時代や地域の教育的要請に有効にこたえてまいらねばと考えます。

校舎・体育館・校庭等の教育施設は松下逸雄同窓会長さんの格別なるご尽力によって着々と整備充実して来ており、責任者として衷心より感謝申しあげている次第です。

校内幹事十六名がおりますので、六十余名の教職員一同と力を合わせて後輩諸君育成のため精進してまいる所存ですので大先輩の先生方はじめ、同窓生ご一同様の一層の御指導御鞭撻のほどお願いします。

末筆ながら皆様のますますの御勇健と御活躍を祈念申し上げます。

クラス会だより

中二五回

今年は当番が地元なので、郷びた場所がよかろうと、鹿塩温泉山塩館を会場に選び五十五年五月三十日（土）一泊三食という計画にした。

大島駅へ集合した者十八名。数年ぶりに再会したと喜び合う姿もあり、端で見る目も微笑しいクラス会風景である。

三時半、迎えのマイクロバスに乗車、小渋ダムに沿う曲った道を揺られ揺られの数十分。車内には途切れない歓談の声が騒々しい程続いていた。

到着早々玄関前で記念撮影をし、部屋部屋に少憩後各自入浴。岩塩を通して湧き出るという鉱泉は、胃腸病・神経痛・婦人病等に著しく効果があるという。ただその浴場までの距離が階段の昇り降りと共に、余りにも遠いので六時頃から宴会になる。

遅くなると、だんだん依怙地になったり、頑固になって来たりするものだが、入浴のあとはビールが良かろうと思ったのが、裏目に出て酒の方がいいと追加に又追加という始末。朝食には酒を用意したら、これも亦裏目に出て「俺はビ[illegible]がよい」と来たもんだ。

部屋割を大体、上戸と下戸を別々としたので、宴会のあと上戸の部屋は夜半近くまで怪気炎が続いていた。

朝食の時に相談がまとまって、次回は松本在住の四君が当番をやってくれることになったので、もう今からその計画を楽しみに思っているわけだ……が、お互様、健康管理を充分にし、元気に又お会いしたいもの。

（仲田丈夫）

中二六回

五十五年九月二十八日に千代田区の東条会館へ飯田中学二十六回卒の十五人が集まり旧交を暖めた。

冒頭加納好雄君と恩師佐々木八郎先生に黙禱を捧げて冥福を祈り、叙勲に浴した上山定治（勲三等）久保俊彦（勲三等）吉川田己夫（勲二等）の三君に対してお祝いの寄せ書きをして喜びを頒ち合った。

海外や宗教の話（久保君）中国所感（吉川君）法律から見た中国（林君）など各人からそれぞれ貴重な話しが出された。流石、七十年の風雪に耐えて来た古木の風格が滲み出て感慨一入であった。

予定の四時を過ぎた頃に斉唱し、最後に万才を三唱して握手を固く交し再会を約して散会した。

（金田真治）

中三〇回

昭和五十五年十月四日柏心寺に於て故安静諄成兄の義弟外一名の導師のもと、五十二名の物故旧友の法要を厳粛なうちに行う。終って会場を今宮公園下の飯田ラドン健康センターに移し懇親会を開く。参加者三十六名、

支部だより

関西

五十五年九月十五日に関西連合の同窓会が神戸支部主催で開催された。

関西連合は京都・大阪・神戸の三支部からなり三年に一回の割で当番幹事が回ってくる仕組み。

八十才を越えて益々元気な代田繁連合会長（中17回）を筆頭に、松崎武雄氏（中19回）池田茂登氏（中25回）中塚春男氏（中36回）等各支部の役員が打ち揃い、定刻、村沢（中47回）の司会で開会、冒頭永年支部長としてご尽力され二月他界された大沢隆三（中15回）神戸支部長に黙禱。

代田会長の挨拶のあと千葉達人氏（中27回）を神戸支部長に選出、中塚春男事務局長から会計報告、千葉新支部長の音頭で乾杯。松下同窓会長からの祝電披露のあと自己紹介に入り、親子三代の人生観などが話し合われた。☆

北海道

五十五年の秋季例会が十一月二十九日に、札幌市中央区の東家本店で二十二人参加して開かれ、老男若女の先輩後輩が親交を暖めた。当日の参加者は市瀬浩（中46回）下原良介（中46回）橋部浩三（中41回）金子（宮下）としみ（高24回）今村昌男（併1回）小木曾嘉文（高28回）小林義康（中46回）浜島泉（高10回）松尾正之（高6回）西山克之（中48回）中原正樹（高10回）小林邦彦（高13回）吉村洋吉（高4回）宮井輝男（高7回）原（加藤）宏（高15回）金子倫久（高24回）吉沢亨（高31回）小林義明（高31回）福元担（高5回）渡部清司（高31回）市瀬克也（高31回）中田徹（高6回）であった。

（中田徹）

☆席上、高校卒の参加が非常に少ないとの意見が出され、皆で後輩への呼びかけを確認。校歌放吟のあと関島神戸支部幹事長の万才三唱、五十六年京都での再会を確認して散会した。（村沢文夫）

誠に盛会。懇親会後、飯田まつりのキオイと花火の見物に街へ繰り出す。まつりは好天に恵まれ近来まれにみる賑い。宿泊者二十名。深夜まで話がはずむ。翌日尚、故郷の秋をなつかしみ更に一泊する者五名。これらは十月六日伊那の中村（村沢）隆君の案内で最近開通した南アルプス・スーパー林道を探勝し帰宅した。当日は飯田まつりの役員のため出席出来なかった者も数名あったが、この日のまつりは遠来の友には楽しく懐しい観物であったようだ。（中島君男）

中三九回

昨秋十一月八・九の両日、秋酣のたてしな高原グランドホテル竜の湯で同級会が開かれた。

この会はたまたま卒業四十年に当り、県内と県外との合同三九会として双方の幹事が連繋して設営し約三十人が参加。一晩を楽しく忘れ難い思い出の集いとなった。

はるばる北海道から成瀬富造君も参加、それぞれ自己紹介や近況報告のあと痛飲・校歌・応援歌を歌って高校健児に若返った。翌日はそれぞれのグループでゴルフ、ドライブを楽しんだ次第。諸兄の一層の活躍を期待しつつ記す。

追伸（大会予告）

全国大会を五十七年の春、昼神温泉に於て開催を予定しています。称して「還暦三九大会」。多数の参加を期待します。

（加藤清敬）

中四五回

在関東

同級会もご五年間は行われなかったが、最近多数の方々から開催の要望が出て来たので、卒業三十五周年を記念し、六月十二日、品川の東京観光ホテルにて在関東同級会を行った。

関東地区在住者は現在六十余名であり、新幹線日帰圏の在住者数名を含め七十名に通知をし、五十名の返信と、三十三名と云う多数の出席者が得られ盛会な同級会となることが出来た。

時間の経つのも忘れ九時半に校歌・信濃の国を合唱し、又の再会を約して散会した。（新井清）

高八回

飯田高松高校八回卒業生は卒業二十五周年を記念して、昭和五十五年十一月一日に同級会を母校で開いた。同窓会館三階で記念式典と物故者の追悼式を行い、席を上郷町民会館に変えて祝宴をもった。同夜は市内に一泊して二十五年ぶりの再会を楽しんだ。在学当時の学校長であられた北原明治先生をはじめ恩師八名が参加され、卒業生九十八名は、昭和二十八年から三十年のまだ戦争の影響が残りながらも、ようやく落着きをとりもどしつつある時代に過した学校生活の話題に花を咲かせた。八松会はこの日の記念に母校に堅固な木製の演壇一式を贈り母校の今後の一層の発展の一助とならんことを願った。

八十周年記念カメラレポート

忙しかった受付

市長もやって来る

松下会長挨拶

祝　辞

きしむ程の大盛会

寸評

天下の名門の名を恣いままの飯田高等学校八十周年記念式典は光り輝く伝統、歴史を誇る本校をことほぐかのように、朝から終日ぬけるような晴天に恵まれ、盛会裡に無事終了した。

世俗の言を借りれば本校卒業生、在校生全員の日頃の行いが良かったと言えよう。

このカメラレポートの会場写真を御覧頂ければ当日いかに盛会であったかおわかりでしょう。

往時のメッチェンの姿もちらほら……彩りを添えていた。前日二十五周年を催した面々は二日酔い。式典、祝賀会を終えて同級会に走る顔ありあの興奮、あの感激、いつまでも若い気のあのなんとも騒々しいばかりの祝賀会のどよめきが、今／昨日の事のようによみがえって来るではありませんか／

各位の御自愛、御健闘御活躍をお祈り申し上げます。

来賓席

記念式典に参加して

高二　岡村隆臣

飯田高校独立八十周年記念式典が行なわれる十一月二日、同期の本多勝一君の記念講演があるのを機に、天竜峡で同期会を開催する運びとなった。

本年は卒業以来三十年という記念すべき年でもあるからである。

記念式典の始まるまでの時間待ち合わせた同級生は元奉安殿があった跡に建てられている「希望の像」の前に立つ。思えば入学した昭和十九年に学徒動員で殉職した五人の先輩と過ぐる戦争の為犠牲となった多くの同窓生の慰霊碑である。当時の講堂で行なわれた校郷の記憶がよぎる。

記念式典が行なわれている体育館に急ぐ。在校生会員と同窓生、PTA等おそらく千五百名を超す人数である。底冷えのする椅子に座り祝辞を聞く。東京・長野から、地元から同級生が続々とつめかけて来る。三十年ぶりの再会である。

それにしても今の高校生は行儀がよい。記念式典が終り本多君の記念講演である。こんなに大勢の前で話すのは初めてであること、講演は原則として断っているので、断り状を印刷している位だと笑わせ、飯田高校で学んだ六年間を何よりの誇りとしていると前置きし、民族と文化について世界及び日本各地で取材した豊富な経験と、鋭い観察から具体的な例を挙げ乍ら話を進め極めて感銘の深い講演であった。只あまりに講師紹介に時間がさかれ、当時の母校についての話が少なかった事が残念であった。

本館前で「青雲の像」の除幕が行なわれ生徒の素晴しいアトラクションが行なわれている間を利用して十数名の同級生達と資料展示を見る。なつかしい写真、校友会誌に寄稿した自分の名前を見て懐旧の想いひとしおである。わずか中学二年で二十四時間三交代で旋盤に取り組んだ学校工場の跡であった東体育館、校舎の外観はきれいに塗りかえられ窓はサッシになり新しく図書館、運動場が設けられてはいるが特別教室等は殆んど三十年前そのままである。然し調理教室が新設されているのも時代である。入学当時の教室では、その時坐った椅子の位置に坐り五十男達も大はしゃぎである。風越山を望む屋上に出てみる。そのかみの文学青年も自治会の会長も野球部の猛者も、社研の闘士もすでに白髪がまじっている。

晩秋の色濃い伊那谷を一望出来る屋上に立てば三十年の歳月は一瞬の間である。講堂での祝賀会の乾杯もそこそこに、おそらく自分の生涯で二度とこのような機会は訪れないであろうという思いが去来し、この意義深い記念式典を準備された方々に感謝しつつ天竜峡の同級会会場に向う為なつかしの母校をあとにした。

喜びの顔

生徒会長挨拶

政治家特集

思い出と希望

参議院議員　熊谷　弘（高11回）

八月下旬から九月上旬にかけて参議院災害対策特別委員会の視察で、久し振りに飯田を訪れた。

今年は長野県にとって災害の当り年のようだ。

考えてみると高校卒業以後初めて来たわけだから、もうかれこれ二十年振りということになる。バスの中であのなつかしい風越高校は移転していることを知る。小生の下宿であった小林さん宅は郵便局になってしまっていた。天理教の教会、そしてあのまきれもない我が母校のドーム。

はんの二、三時間の短時間であったが、高校時代の思い出にひたらせてくれるには充分だった。

冬の寒い所だったなあと思う。遠州の北のはずれの生れの小生であったが、信州の寒さは比べものにならないものだった。朝、晩いつも雪のまがりそうに塩からいしゃけをおかずの下宿の御飯。昼はいつもコッペパンだったように思う。

リンゴの花。たわわに実る梨園。クラブ活動の合い間に学校の周囲の土手に寝ころがって夢を語り合った友人たち。〝ろくらなり先生〟の英語の授業には、相当緊張させられたなあ。

こんなことを考えているうちにバスは飯田を離れて、国道一五二号線視察のため、南下の道をたどりはじめた。

いま、小生の最大の念願は、飯田市と静岡県浜松市を二時間で往き来できるようにすることだ。

国道一五二号線は、まぼろしの国道と呼ばれ、長野県内で一ケ所、静岡県と長野県の県境で一ケ所未開通区間が残されていて、地図の上では国道となっているが、実際は他の道を通らなければならないのが実態だ。

元来日本列島は、東西の交通は比較的通りが良くなってきたが、列島を縦断する線は、整備がほとんどなされていない。

このため、長野県と静岡県は隣接していながら、交通は途絶状態に放置されているといっても過言ではない。

南信州、とりわけ静岡県、愛知県と近い地区は過疎化が進行しているが、この状態を切り開くには、静岡県と長野県の交通がスムーズに流れる状態にしなければならないのは自明の理だ。

しかも南信州は最近、電子工業が発展しはじめたが、これが遠州地方の機械工学と結びつけば、メカトロニクスという大きな経済の流れと、完全に合致する。

かって、遠州に生れて信州の学校に学んだ者のこれが最大の夢である。

何とか早く一五二号線の全面開通を実現したいものだ!!

飯田を何年か振りで訪れて、飯田高校卒の国会議員は、今は地元には一人も居ないと伺った。

残念でしょうがない。

遠峯の山際が鮮明に浮び上がり、初秋の風が爽やかに吹き抜ける新館三階の会議室で開催された。

長坂副会長の開会挨拶の後、物故会員を偲び、冥福を祈って、黙禱が捧げられた。

園に衣を着せぬ会長挨拶では、遠方の同窓会支部総会へ、正副会長以外の会員派遣により、一層絆を結び合っていく方針であること、同窓会の任務が、在校生の学習活動援助になるような仕事をして行きたいこと等を強調した。また現在の長姫高校の矢高原移転に伴い長姫高校とも話し合って飯田中学の歴史を偲ぶ記念碑を同校跡地に残す方針が話された。

引きつづき三浦校長の学校現況報告をまじえての挨拶があり、議事に入った。

五十五年度決算書は、一般会計・八十周年記念特別会計・会員名簿発行特別会計よりなり、監査報告後承認された。

五十六年度の事業予算では、前記記念碑建立委員十名が選任され、一方長く続いてきた浪人教室が希望者数がすくなく、設置されなくなった点が特徴である。新役員が承認され、議事は無事終了した。

続いて行われた平沢弥一郎氏の記念講演は、二本脚で立つようになった人類の変遷と、現在のわれわれの健康維持の問題を、特異な発想で、ユーモアをまじえて話され、それらが氏の風貌と相俟って、時間の経つのを感じさせなかった。

懇親会は、少しの酒気で談笑の輪をあちこちに作り、それが広がって和やかな会場となった。出初めの音が合わない校歌も、徐々に一つにまとまり、上伊那から来られた高坂宗一氏（中26回）の万才の音頭で、名残り惜しさに終止符を打って解散となった。

早く同窓会の皆さんでがんばって頂いて、遠州と信州を結びつける大事業を共同でやってくれる政治家を生み出してもらいたいものだ。

定期総会開催される
昭和五十六年度

八月二十三日、百名に近い会員の参集のもとに、本年度定期総会が開催された。会務報告、五十五年度決算書、五十六年度予算案等の議案が承認され、引き続き、巨漢平沢弥一郎氏（中40回）の記念講演「立ち上がったホモサピエンス」を興味深くまた爆笑のうちに聞き和やかな懇親会で終了した。総会は午後一時より

飯高同窓会記

久し振りに飯高同窓会総会に出席してみた。

会長松下逸雄県議が壇に並んでいた。総会の議事は海千山千の松下御大だけに堂に入ったものでスムーズに終了。終って平沢弥一郎東工大教授の講演を聞いた。生理衛生の専門家らしく蘊蓄を傾けてユーモアたっぷりのききどたえのあるものだった。英国の話、米国の話、東南アジアの話など誠に興趣に満ちたものでスライドを用意した面白いもの。動物の創生紀から現代まで聞きあきないものだった。終って懇親会に移りビールで満を引き誠に楽しかった。同級生の顔が見られなかったのは残念至極。

高坂宗一君も出席しており、例の通り頑固なところもあったが、ビールの電車に同乗、議論を闘わせて七久保へ帰る彼とは上片桐で別れた。

久し振りの総会に出席松下御大、大沢和夫先生野球で名ピッチャーでならした先輩の木村氏にも逢い楽しい同窓会の一刻だった。私の通った頃の学校とこと変り附近のたたずまい校内の教室等も雰囲の差で立派なものだった。宮沢忠男（中27）

昭和五十六年度同窓会定期総会 記念講演
「立ち上がったホモサピエンス」

講師　東工大教授　平沢　彌一郎（中40回）

自分の意志によって動かないでいることのできる動物は人間だけです。ホモサピエンスとは「知恵を持った人」という意味ですが、人間は知恵を持つことによって動かない動物になったのであります。今日、多くの学問の分野で人間の動く部分の研究に力が注がれています。しかし、じっとしているのが人間の特性でありますならば、動かないでいる能力について探る学問もあるはずです。私はこれを「スタシオロジー（身体静止学）」と名付けました。チンパンジーの立ち方と人間の立ち方を比較しますと、チンパンジーは「立っている格好」をしているのであって、立てるのは人間だけです。立つとはきちっと両足をそろえて最も安楽な姿勢で立つことを言いますが、サルは足がそろいません。人間の姿勢の基本が立つ姿勢にあることは「からだ」の語源が「幹立ち」であることからもわかります。つまり、いわゆる「からだ」は横になってはいけないのであって、常に大地に立っていなくてはなりません。そして、それを支えるのが「足」なのです。

それでは人間はどのように立っているのでしょうか。「座禅独楽」という言葉があります。コマが回転してじっと止まっているように、人間がよく見るとどこかで動いているのにじっとして動かないように見える状態を言います。ほぼ同じ状態を英語でもtop sleepsコマが眠っていると表現します。なぜこれらの言葉にコマが使われるのか。私は、人間が立っている時に一本の心棒（重心）があって、その心棒がコマのように回転しているのではないかと推測しました。どうも右回転しているようなのです。まっすぐ立って両足をそろえますと、かかとから爪先までの長さの、かかとから四七%の位置に重心があって、それが呼吸に合わせて右回転します。どうして重心がからだのバランスを保ち、人間は立っているわけです。

今私は二つある膝小僧の左右の大きさが違うのではないかという予測に立って研究をしております。さわってもわかりませんが、左の膝が大きい人の方が動きがいいらしい。力の入る仕事をしている人は特にそうです。どうやら左の膝の方ががっちりしていて、右は補助らしいことが分ってきました。五才以前か六〇才以後の衰退期には、両足に均等に力がかかるようになります。成人の多くはビッコです。スカートをはいた女性を後ろから見ると、多くはスカートの左が下がります。マラソンのフランクショーターが言いました。「私は左足で走ります。右足はサブです」。彼はラストスパートに入ると左のパンツがぐーっと下がって来ます。子供達が体育の授業の中で、好きな種目の時は左のパンツが下がり、嫌いなものの時には平らです。いつも平らな子は体育の嫌いな子です。全体に、目標に向かって左足がまっすぐ進む人は体のバランスがとれていると言えます。

◇

人間の足の歴史を調べておりますうちに、あまり遠い将来のことではなくて人類は滅びてしまうという結論が出てしまいました。人間の立ち方がどうもおかしくなって来たのです。二三〇〇年前の足跡が福岡県で出ましたが、その形は逆三角形で爪先が先の方にかかとがとがっています。重心が前の方にあって、やや前かがみで機敏に動いていた証拠です。現代人はどうかというと、かかとが丸く大きくなって弁当箱のような足形をしています。先に述べたかかとから四七%という重心の位置は一九六〇年のデーターです。乙の二〇年のうちに四〇%の位置に後退しています。乙のままのスピードで重心がかかとに近づいていくと、いずれ人間は直立能力を失なって後ろへ倒れると推測するわけです。

いったい何が変わったのか。原因の一つに食べ物があげられます。古代人の頭部を見ますと、上あごと下あごがそろっていて全て奥歯のような形をしています。彼らにとって歯は堅い物を食べる、さらには引きちぎる道具だったわけです。現代人のあごが縮んだのは、やはり柔らかい物を食べるようになったからです。特にこの二〇年は食べ物の変化が激しいのです。あごがひっこめば後ろが重くなりますから、重心が後退し、姿勢もだんだん反ってくるわけです。

どうしたらよいかという話ですが、立ち上がってしまってからジョギングやぶら下がりをやっても身体の本質的な部分に影響を及ぼすことは不可能です。スポーツが体を丈夫にするというデータはないのです。むしろ障害があります。すなわち、生まれてから立ち上がるまでにほとんど全てが決ってしまうのです。赤ん坊が泣きわめく時にもう重心の動揺が始まり、すぐに左右の体の動きが分かれ、心棒のねじりが始まるのです。ねじりはやがて寝返りとなり、立つのが眺んだのは、やはり柔らかい物を食べるようになったからです。特にこの二〇年は食べ物の変化が激しいのです。あごがひっこめば後ろが重くなりますから、重心が後退し、姿勢もだんだん反ってくるわけです。

どうしたらよいかという話ですが、立ち上がってしまってからジョギングやぶら下がりをやっても身体の本質的な部分に影響を及ぼすことは不可能です。スポーツが体を丈夫にするというデータはないのです。むしろ障害があります。すなわち、生まれてから立ち上がるまでにほとんど全てが決ってしまうのです。赤ん坊が泣きわめく時にもう重心の動揺が始まり、すぐに左右の体の動きが分かれ、心棒のねじりが始まるのです。ねじりはやがて寝返りとなり、立つ練習へと到ります。寝返りの準備は生後四～七ケ月頃からと言われますが、実は出産直後に始まっているのです。生後二〇～四八時間の間に姿勢をきちんと見てやる必要があります。人類はいずれ滅びると申しましたが、そこに到るまでに必要なことは、立ち上がってからの様々の施しではなく、新生児に目を向けてやることだと思うのです。

―講師紹介―

下久堅出身・中学四〇回生と同期・三年修了後長野師範、東京体専卒・竜丘小にて代用教員（乙の時子供達が足の裏の形を墨で取ったことが研究のきっかけとなる）・静岡大（工）教官を経て、現在東京工大教授（体育生理学）・医学博士（「足の裏博士」として名高い）

支部だより

★阿智

阿智支部総会報告
一、日時　八月二十九日
二、場所　駒場「稲石」
三、次第
㈠母校の近況報告
前同窓会副会長北原明治
飯田高校校長　三浦　宏
㈡会則審議決定
㈢役員改選
支部長　北原明治
副支部長　高坂貞男
原　文実
事務局　熊谷恒夫
下条恒男
川上進午
熊谷　哲
会計　曽
同窓会会長　松下逸雄

約二十年ぶりの開催で校歌・応援歌が合唱され大変盛会でした。

★飯田市役所

飯田市役所支部は、職員と市議会議員とで結成され、会員は本年の四月現在にて、一七六名となり、長い伝統と誇りとをもって、それぞれの立場立場にて活躍しています。

去る九月二十四日、昭和五十六年度の定期総会を開催し、一三〇余名と発会以来の出席人員でありました。来賓の中で、本会からは、長坂副会長のご列席をいただき、同窓会の現況の報告を受けました。議事の主なものとして、昭和五十五年度支部会計決算が満場一致で承認されました。続いて新入会員二十三名の紹介をいたし、新入会員は心をあらたにいたしました。

総会のあと祝宴に入り酒豪揃いの中で、酒を酌み交しながら、話題に花を咲かせ、校歌を最後に気勢をあげました。

以上、同窓会飯田市役所支部の近況と致します。

★丸山

飯田高校同窓会丸山支部の設立総会が十月十二日砂払温泉にて、出席者四四名を得て開催されました。

丸山地区内の同窓生、二二七名のうち賛同者一三三名、出席率六割近い出席を得た。本会より会長の代りに、外松副会長の御出席を得、力強い祝辞と本会の近況を述べられ、又中島前会長より多年の同窓会長としての経験を話され、我々一同決意を新しく運営の参考になりました。

とかく同窓会というと出席者は老人が多い現状であるが、丸山支部においては魅力のある支部のために若い人達を結集して、支部を盛り上げてゆくことを主眼として、広い丸山地域内に若い人達を役員に選出して地区をまとめてもらうようにしました。

支部長　吉川正五郎　中34
副支部長　岩戸　順　高2
酒井　顕一　高13
監事　片桐　馨　中30
今村挺二郎　中31

の諸氏で各町内毎に幹事二名を選出、うち一名は高校卒業生という選出です。

幹事　二一名
（支部長　吉川）

★喬木

飯田高校独立開校八十周年と期を同じくして結成され今年で三年目を迎える。これからぼつぼつ独自のカラーを出していきたい。

本年度の総会は六月二十一日午後二時から老人福祉センターで開催し、本会から松下同窓会長を招き盛大に行なわれた。

本年度の事業計画は次の通りである。

「八十周年記念「校史」の購入者へ補助金を出す。（年会費千円のうち五百円）

先輩の講師を招いて講演会を開催する。

会報を発行し、会員相互の親睦を計る。

なおこの秋には支部会員の有志でナイター観戦も計画し、着々と底辺の拡大と友好を目標に意欲的に計画を消化している。

支部会員の中には、戦前、戦中、戦後と伝統ある「青竜会」のイメージが強く、「喬木支部」ではどうも〝しっくり〟いかない……という〝仲間が比較的大勢いるのには驚いている。

役員改選では、結成以来かわらず再選され次のとおりとなりました。

会長　松島五郎　中29
副会長　福沢磯伊　中31
市瀬八郎　中35
事務局長　原　義顕併中1
幹事　福沢亀人　高6
木下弘信　高8
木下盛弘　高8
春日利夫　高8
沢柳宗正　高9
松沢　健　高11
忠平隆三　高17
会計　市瀬正彦　高8
会計監事　高橋富美雄中39
塚平善一　中41
東原美寅　中42

★上郷

上郷支部は昨年九月二十八日に復活総会を開き、暫く休会となっていた会を再出発させました。いまのところ支部としては会員の把握を重点目標に活動をし、昨年作成した支部会員名簿をもとに役員の協力で台帳を整備しています。

本年は八月三十日（日曜日）午後一時から上郷町民会館で、昭和五十六年度の定期総会を開催しました。この総会には会員五十名が出席、本会の松下逸雄会長から祝辞と本会の情勢報告を聞き、支部の事業報告、会計報告にもとづいて今後の活動方針を検討し、終了後は懇親会で昔を偲びました。

（常任幹事　後藤好男）

★関西

九月十五日敬老の日をトして関西支部の総会があるというので、会長に代り参加した。

場所は平安神宮の近く法勝寺町の「白河院」という料亭。何かいわれのありそうな、静かな庭に囲まれた会場である。十一時に始まるというのに三十分前に到着し、係の方が準備に大わらわである。会長の代田稔先正も先刻着いている。暫くお話をした。続々と会員が集って来る。奥様らしいご婦人と同伴の方が目につく。中には子供を二、三人連れた方もあり、赤ちゃんを抱いた方もある。これは珍しいことと思った。およそこのような会には、年寄りが集って若い人は敬遠するものだが。四十五人の申込みというが、まず六十人はいる。中学生時代、高校時代の言葉でしゃべる。郷土の言葉で話す。会場は打ち解けてくる。まさに和気あいあいである。

京都・大阪・奈良・遠くは和歌山県の白浜からお越しの方もいる。六十才以上約十二人、あと四十人余は何れも若い方。中には大学に在学中の人もいる。形の如く式次第に従って進行し、招待者として私が立った。同窓会事業のことや、今後の仕事の予定等お話をしてご協力をお願いした。併せて関西支部のますますの発展をお祈りした。同行の高校事務長の東原先生が学校の近況、進学の状況、クラブ活動等を報告して寝にうつった。

自己紹介が面白かった。関西テレビにお勤めの方はテレビチャンネルは是非関西テレビへと言い、銘酒福娘の方は酒は福娘を愛飲されるようにと宣伝。台の上には如才なく福娘のカップが乗っている。医者がいる。社長連京都代表がいる。技術屋がいる。新聞記者がいる。台の上には代田会長差入れのヤクルトの瓶が並んでいる。代田会長は八十三才におなりの由であるが、まことにお元気である。すこし減量につとめられおやせになった。この方の統率で関西支部が盛大になったのだろう。それぞれの自己紹介が会社の宣伝を交え、或いは同伴の奥様のおのろけ等まことに面白い。さすがは学校を出てから社会でもまれた故か、話がうまい。爆笑につぐ爆笑で会は本当に盛上がってきた前会長夫人の松村やをさんが相当のお年のようにお見受けしたが出席されていた。今だに会の運営にお骨折りされている由を承った。関西支部を作りあげた方の奥様である。まことに有難い方のご出席である。

さて今までは各支部の総会には会長、副会長という人々が出席していたが、この度は平の会員が代って出ていくということになった。つい先だっては北海道支部の総会に中「二七」の伊沢集治氏が出席したと聞いているが。一般会員もこのような会に出て、その活躍状態を見たり、運営の様子を知ることはいいことと思う。これからもこのように平会員がお使いすることの続くように切に望むものである。

自己紹介が終って、それぞれがかつての同級生或いは先輩の人などを囲んで、歓談が続いたが、遠方の人も来ていることだし、子供さん、奥さんもいることなどを顧かり、三時に会は終った。

靴を履いても、庭に出てもまだ別れともない気持で会話が続いたが、間もなくもとの静けさに戻った。運営に当った代田先生、（中25）池田茂登氏、（中39）中川重成氏はじめ大勢の係の方が後始末をしておられたが、私はさよならをした。

今日この盛大な会の設営に当った皆様に誰んで御礼を申し上げたい。有難うございました。

（中28回　前島栄一）

★北海道

昨年の独立八十周年記念式典の折、北海道支部長の橋都さん（中41回卒）が北海道代表として遠路さわざ出席され、「本部より支部総会に誰か派遣してくれ」との依頼があった由、その要望に応えて不肖小生が行くことになったのである。

八月二十七日名古屋空港を発ち、予定より少し遅れはしたが、無事、千歳の空港に着いたのは十七時近くであった。

出口を出ると、橋都さん、中田君（高6回）、松尾君（高6回）の三人が出迎えてくれ、御厚意を心にうれしく思い乍ら松尾君の車に乗り、千歳街道をひた走り、中田君の家に着き、奥さんに出迎えられて宿の人となる。

翌二十八日は中田ご夫妻に北大をくまなく案内してもらった。

飯田中学、飯田高校から北大に学び、その後北海道に留り、各界で活躍している同窓会員の方々のことを思い、今後其後輩達が多くこの大学に学ぶようにすすめなくては等と考え乍ら見学を続けた。

（中略）

十八時すぎ、中田君と熊谷良一君（高6回）に迎えられ、数人の有志の待つという南二条西四丁目の料亭「かにっ子」に急ぐ。挨拶もそこそこに同窓会前夜祭の酒宴に入る。

北海道で活躍している同窓会員の近況、小生からは、母校の様子、伊那谷の近況など、尽きぬ歓談に夜は、たちまち更けて、解散したのは二十二時近くであった。

明くれば二十九日（土）十五時頃迎えに来てくれた中田・熊谷両君と歓談の後、十七時近く今夕の総会場である中央区の繁華街にある「さっぽろっ子は甘川」に向かう。

十七時半開会、会長挨拶の後、約三十分小生の講演を行う。先づ松下会長よりのメッセージを伝え母校の近況、郷土の変り行く姿などに加えて小生の所感などを話す。宴会に入る。自己紹介が次々と進められ。会員の方々の力強い近況説明をたのもしく聞き入る。異郷の大地に生き抜いて既に大会社の社長となっている者、若くして、医師会の重鎮となって頭角を表わしている幾人かの会員、北大の教授として、学会に権威を築きつつあるもの等そうそうたる面々の集りとなったことは、母校として、誠に慶賀にたえない処である。興の赴くままに当世お流行のカラオケに美声を競う者あり、議論をたたかわす者あり、歓を尽し終ることを知らずの状況が続く。校歌を斉唱し、恵迪寮寮歌を歌い散会したのは既に夜も更けて二十三時頃であった。

北海道同窓会（56・8・29）

当日の出席者三十二名。

総会の席上支部役員の改選があり、新会長に成瀬富造さん（中39回）が選ばれ、副会長に小林さんが留任、幹事長は中田君が引続きつとめることになった。（後略）

（中27回　伊沢集治）

クラス会だより

中三七回

我々三七会は昭和十三年に卒業した者達の会であるが、偶々支那事変、大東亜戦争に遭遇、殆んどの者が現役、学徒、召集により従軍し、約四十名を戦死、戦病死と二十才代の前半において貴い青春を国に捧げた。

戦後二十二年初の同級会を飯田東中礼法室に於て開き、名称を飯中三七会とし、以後毎年開催、今日に至っている。現在飯伊地区四十名、関東地区二十名、他地区二十名と分散しており、全員集合は無理である。

本年三月、東京の岩下邦雄君から関東地区の諸君が三七会を開くから是非出席しないかとの連絡を受け、三月二十日上京した。同日午後五時半からレストラン三笠会館で開催され、日立の下田、水戸の本島、千葉の下井田、横浜の鬼頭、今村（圭）、細沢、鎌倉の岩下、都内から浦野、加藤、久米、瀬戸、渡会、湯沢、吉沢（久）の諸君が出席、卒業以来の顔で思い出すのも一苦労といった場面もあり、お互いに定年も過ぎ、還暦を迎え乍ら今日益々元気で活躍していることを祝福し、時間を忘れて大いに飲み、大いに語り合った。

殊に渡会、瀬戸君は父君の勤務の関係で在学中途で転校し、充分消息がつかめていなかっただけに収穫であった。小生からは、同窓会や在郷の諸君の現況を伝え、「帰郷の際連絡さえくれれば在郷の諸君にも呼びかけて一杯の機会を作るから」と話し、名残りを惜しみつつ九時解散した。

（本庄芳美）

中四〇回

昭和五六年八月二三日
会場　飯田市内　松楽

三浦新校長の誕生は同級生として大変喜ばしいことであるので、激励会を計画していたところ、同窓会総会の講演に、これまた同級で東京工大教授、通称足の裏博士といわれている平沢弥一郎君が来飯するとの報を得たので、郷土は在住する有志が急拠集まり、総会当日、歓迎同級会を盛大に催した。

我々は昭和十六年三月卒業で、時あたかも日支事変から大東亜戦争に突入しようとする時期であり、軍事色濃厚な世相であった。

卒業以来四十年経ち、特に平沢君とは卒業以来はじめて会うことでもあり、「ガキ」の頃の懐かしい思い出話で時の経つのも忘れたことでした。

戦争、敗戦、戦後の混乱、日本の立直り等、激動の半生を良くもまあ無事生き抜いてきたもの。これからも長生きして、気分的にゆとりのある熟年を過ごしたいものであるとは皆の述懐。

談論尽きないうちに飯田の夜もすっかり更けてしまいました。未練を残しつつ校歌と「卯神水久」を斉唱し、三三五五、夜の巷に散って行きました。

（馬場　薩）

寄贈品紹介

◇「旬集　蟲のとう」
酒井淳子氏（高4）

◇「歌集　大羅塔」
田中正明氏（中29）

◇「記念文集　嶺峰」
代表　小島律彦氏（中36）

◇「流るゝ河は一百里」
吉澤　登氏

◇「アジアの曙」
田中正明氏（中29）

◇竹村毅先生追悼集「竹村かすみ氏」
（竹村毅中31　夫人）

◇「吉川建設三十年史」
吉川建設KK

◇「八松会　二十五年記念誌」
代表　平栗哲夫氏

◇「屋上展望図」（パノラマ）
中48回　高2回生一同

◇「演　台」
高八回生一同

↑パノラマ

↑演台

→図書

会員だより②

前略

事務局の皆々様毎号御編集の御労苦、誠に御苦労様に存じます。

「長野県飯田高等学校同窓会」の茶封筒が届くたびに胸おどらせ乍ら開封しております。

歴史の長い本校故、各代各層に亘っての記事を載せられる御苦労もさぞかしと察せられますが、何より感心しておりますのは年代別に偏していない点で大いに好感がもてる次第です。

小生など卒業後三十有余年になりますが母校並びにその周辺に関するニュースを求めるのに「会報」こそ最上と思っておりますし、又それに応えて下さる事務局の皆々様の気の配りように頭の下がる思いです。

私共の「中43回」昭和十九年三月卒、卒業生は仲々に気の荒い連中が多く勉強もしましたが、下級生をイジメル事も相当なものでした。現在毎年十一月、恩師秋山英語、大熊数学の両先生をお迎えし在京の諸兄約三十数名にて盛大に同期会を開催しております。

興至れば自ら「赤石山……」「神神永久に……」又「信濃の国」等々と名歌続出、青春時代の想い出尽る事なしの有様です。

「飯中43回東京支部」として大いに気勢を挙げていますが、残念乍ら同期生より「会報」への投稿が少なく日頃歯がゆく思っておりました。

そこで今回「会員だより」にまず第二弾と思い寄稿させて頂きました。

本年の会は来る十一月十七日、又大いに盛んに持たれる予定です。追々個人、同期会の近況等お伝え申し上げたいと思っておりますが、何卒よろしく御配慮頂ければ幸です。乱文、乱筆御寛恕下さい。同窓会並びに事務局益々の御発展を心より祈り上げます。　匆々

坂本　武（中43）

クラブ活動状況

昭和五十六年度のクラブ、同好会数は、運動班関係18班、学芸班関係32班、合わせて50班にのぼり、大多数の生徒がそのいずれかに所属して練磨研鑽を重ねている。その中から本年度に目覚しい活躍を示したものを紹介してみると―

〈運動班〉

陸上は五月の県大会で、茂手木（二年）千五百二位、杉本（三年）走巾三位、五千二位、三段跳四位、山田（二年）女子円盤四位、北信越大会では、茂手木　千五百三位、杉本　走巾　二位、三段跳三位となりインターハイに出場して活躍し、秋の南信新人大会では総合優勝を果たした。

庭球は県大会で団体準優勝、北信越大会では木下・川上組（三年）が四位に入賞し、木下は国体出場。

水泳は村沢（一年）がリレー選手として国体へ。新人大会では女子が総合優勝。

空手で新井（三年）が国体県予選で二位に入った。

野球は夏の甲子園予選で七対一と上農高を下したが、強敵東海大三に五対九で惜敗した。しかし有望な新人生が多数入部して今後の活躍が楽しみである。

卓球は県大会で男女共に団体三位、北信越大会に串原（三年）男子優勝、折山（二年）女子優勝と精華を挙げた。

〈学芸班〉

吹奏楽は県大会で大編成の部に金賞受賞、七年連続県大会金賞の偉業を成し遂げた。続いて県代表の一校として「全日本吹奏楽コンクール東海大会」に出場し、銀賞の栄誉を得た。足りない楽器を工面しながらの大奮闘であった。

第29回全日本吹奏楽コンクール東海大会で銀賞を受賞
56・9・15　岐阜市民会館にて

演劇班は「飯田下伊那の"トサッサ"について」北原公祐（中28）

「飯田高校……」の放送を視ました。「勝利の曲」を聴きました。

あの"トサッサ"は本来無かったものではないでしょうか。

格調高い歌詞、曲にどうにもそぐわないように思われます。

飯中二十八回卒の私共の一、二年生時代は木村名投手を擁し野球では郡内無敵を誇ったものでした。城下運動場での青年野球大会の優勝戦には全校応援で見事優勝。歌詞通り「輝く夕陽、背に受けて」高松に移ってからは、野球部も戦力低下、それに城下までの全校応援も出来ないと云うようなことで、勝利の美酒に酔うことも無かったと思います。

それでも何かの折に「勝利の曲」も歌われましたが、その頃から一部で"トサッサ"が入るようになったのではなかったかと思います。あまり優秀な成績でもないのに「勝利だトサ」とでも云うような意味合いからでしょうか。

当時のエリート達の驕り昂ぶりに水をかける揶揄、或いは自嘲の投入語だったのではないでしょうか。一部で"トサッサ"が入りますと歌っている当の生徒集団の中からも茶化されたと失笑が起ったように思います。

歌詞の心になりきって精神を高揚させて歌っていれば"トサッサ"が如何に不調和であるかが直ぐにわかることだと思われるのですが……。こんなふうに考えること自体が既にもう古いということでしょうか？あの歌詞では今の若者達に歌の心になりきれと云っても無理なことはわかりますが時代の流れ情況の変化につれて校歌でも一部変更、削除も止むを得ないことは思いますが本来の良さをふちこわすようなことはしてほしくないと思いますし、伝えるべきものは正しく伝えてほしいと思います。

"トサッサ"についての私の記憶にもし誤りがないとすれば、これは私達の時代の誰かが語さなければわからないことだと思いましたので、不文をも顧みず敢えて筆を執りました。

卒業生の進路情報

共通一次試験が採り入れられてから3年が経過したわけであるが地元の信州大学志向が出はじめ、また、多くの地方大学への分散傾向があらわれはじめた。数の上からみると55年度は5年間では国・公・私立とも一番よかった。依然として旧帝大系の合格が難しいとも言えそうである。　（　）内は卒業生の内数

国立大	東北大	4(2)	公立大	高崎経大	4(2)	私立大	津田塾大	3(1)
	山形大	3(1)		東京都立大	5(1)		東海大	11(7)
	茨城大	4(1)		横浜市大	5(2)		東京女子大	3(2)
	筑波大	2		都留文科大	8(2)		東京理科大	34(22)
	埼玉大	2(2)		その他	3(2)		東洋大	13(6)
	千葉大	3(2)		公立計	28(9)		日本大	48(24)
	東京大	4(4)	国公立短大		26(1)		法政大	19(4)
	東京外大	2	就職	県内	22		明治大	28(17)
	東京学大	3(2)		県外	9		立教大	5(2)
	東京農工大	5(1)		計	31		早稲田大	22(13)
	電通大	3(1)	私立大	独協大	2(1)		愛知大	4(2)
	横浜国大	4(2)		文教大	3		愛学院大	8(3)
	新潟大	3(2)		青学院大	14(8)		南山大	2(1)
	富山医薬大	3(2)		学習院大	8(4)		名城大	8(1)
	金沢大	7(4)		慶応大	12(4)		京都産大	5(3)
	山梨大	6		国学院大	9(9)		同志社大	8(5)
	信州大	51(15)		国基督教大	2(1)		立命館大	14(8)
	静岡大	6(2)		駒沢大	12(6)		関西大	4(3)
	名古屋大	5(3)		上智大	5(3)		近畿大	5(3)
	名工大	3(3)		成蹊大	4(4)		その他	159(74)
	その他	8(4)		成城大	2(1)		私立計	511(274)
	国立計	131(53)		専修大	7(6)	私立短大		30(5)
	群馬県女子	3		中央大	26(16)		各種	26(4)

事務局だより

(一)同窓会報について

過日、会員の皆様方へお送り致しました会長の挨拶文にありますように、本年度より同窓会報の発行が、年一回になりました。"支部だより"、"会員の計報"とか、一年を経過すると、時期はずれと云う感じをまぬがれない部面があるかと存じますが、内容充実に主眼をおきましたので、その点御理解の上、御協力の程をお願いいたします。

(二)同窓会支部の結成

"支部だより"にもありますように、本年は阿智村と飯田市丸山地区とに支部が結成されました。

創立総会開催迄に、御尽力なされました発起人の方々に敬意と感謝の意を表すと共に、支部の発展と会員各位の御多幸とをお祈り致しています。

編集後記

今年の紅葉は例年より早いようで、赤石連峰も大分色づいて来ました。

伊那谷の秋は空気も澄んで変らぬ美しさを保っています。

同窓会報第二十一号をお送りします。

会員訃報

御冥福をお祈りします

中12回岡田一郎 56・5・15
中12回牧内芳雄 55・7・9
中14回北原広男 56・5・4
中14回矢沢清志 55・12・6
中15回西岡忠市 54・6・21
中16回河原芹一 55・11・19
中17回奥村俊正 55・12・15
中17回北原理一 56・5・9
中18回曽我洋 55・11・30
中18回牧島哲 55・10・29
中20回大沢幸平 56・3・6
中20回菅沼秀雄 55・7・15
中20回前沢英三 55・12・4
中21回大場勇治 56・3・23
中21回小池元 56・2・6
中21回古屋寿作 54・5・12
中21回宮下英男 56・9・3
中22回河野通幸 56・6・10
中22回松沢平三 56・3・3
中22回吉田泰造 56・6・28
中23回葛岡一郎 56・4・8
中24回井深功 56・1・19
中24回木下昌一 56・9・3
中24回代田清一 55・11・11
中24回長野政男 53・
中26回林貫一 56・10・10
中27回北原太郎 56・10・12
中28回川上紀元 56・3・6
中31回伊藤勝文 55・12・29
中33回宮島伯 56・6・10
中38回矢沢太郎
中47回熊谷重 56・9・17
中48回北沢昭 56・7・10
高2回久保田響子 56・
高4回熊谷七郎 55・6・
高22回石原好人 54・6・27
高23回松島文夫 55・2・11
高24回寺沢功 52・6・8